



取扱説明書

VHF無線電話装置

IC-VM2005CTM

UHF無線電話装置

IC-UM2005CTM



この無線機を使用するためには、総務省の無線局の免許が必要です。

免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰されます。

この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。

◎DC-DCコンバーターを内蔵し、電圧を自動判別することで、電源ケーブルを12/24V系バッテリー車に直接接続できます。

◎相手局が、通信可能な距離にいるかを知らせるアンサーバック機能を設定できます。

◎他局の不要な通話をカットする連続トーンスケルチ、連続デジタルコードスケルチ、デジタルトーンスケルチ機能を設定できます。

◎基地局用としてご使用の場合は、別売品の卓上電源装置(PS-230A)がご利用になれます。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本書の著作権およびハードウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。

本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

付属品

- ◎取り付け金具(タッピングネジ4本を含む)……………1式
- ◎DC電源ケーブル……………1本
- ◎マイクハンガー……………1個
- ◎両面テープ(マイクコネクター固定用)……………2枚★
★予備の両面テープを含む
- ◎アース線(マイクハンガー用)……………1本
- ◎予備ヒューズ(FGB5A)……………2本
- ◎取り付けネジ(別売品のPS-230A用)……………4本
- ◎取扱説明書(本書)
- ◎保証書

自動車運転時のご注意

- ◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。

電波法上のご注意

- ◎本製品は、電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
ご自分で分解や改造をしないでください。
- ◎免許状に記載されている範囲内で通信してください。
- ◎他局の通信の妨害、および通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎免許の有効期限は、免許取得日から数えて5年間です。
再免許の申請は、免許の切れる6ヵ月前から3ヵ月前のあいだに手続きをしてください。
- ◎使用できるのは、日本国内に限られています。

はじめに

取り扱い上のご注意

- ◎テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれた場所に設置してください。
- ◎直射日光の当たる場所に設置したり、長時間放置したりしないでください。
移動局として車内に設置する場合、炎天下では、温度が極端に上昇し、本機に悪影響を与えます。
また、真冬は、ある程度車内の温度を上げてからご使用ください。
- ◎車載運用では、バッテリー保護のためにも、一日の使用が終わったときは、必ず本製品の電源を切ってください。
- ◎本製品を電気自動車やハイブリッドカーなどでご使用になる場合、それらに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。
- ◎本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合、または停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

放熱について

本製品は長時間運用すると、後面部の温度が高くなります。
子供や周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。
また、本製品はできるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所に設置してください。

車両に取り付けるときのご注意

- ◎自動車の板金部に沿ってDC電源ケーブルを通す場合、保護用テープを巻くことをおすすめします。
DC電源ケーブルと板金部がこすれると、外被が破れ、ショートの原因となることがあります。
- ◎本製品を自動車に取り付けたあと、本製品の電源を入れた状態で、自動車のブレーキランプ、ヘッドライト、ウインカー、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。
- ◎アンテナの同軸ケーブルからは電波がふく射されるので、自動車のコンピューター(コントロールユニット)、およびハーネスから遠ざけ、ハーネスと交差する場合は、ハーネスと直角になるように取り付けてください。
- ◎自動車のコンピューター(コントロールユニット)に影響をおよぼさないようにするため、無線機、アンテナ、同軸ケーブルなどは、次のような電波障害留意機器より20cm以上はなして取り付けてください。
 - **エンジン関係**:燃料噴射装置/エンジンコントロールユニット(ガソリン車)、グローコントロールユニット(ディーゼル車)
 - **トランスミッション関係**
 - :電子制御式変速機/4WDコントロールユニット
 - **その他**
 - :ECS/EPS/ABS/ETACS/フルオートエアコン/オートヒーターコントロールユニット/Gセンサー

一般的なお使用を想定した内容にしていますので、各種機能や設定について詳しくは、販売店にご相談ください。

1.安全上のご注意	1
2.設置と接続	4
2-1 接続端子の名称と機能	4
2-2 設置のしかた	5
2-3 接続のしかた	6
3.交信時のアドバイス	7
4.マイクロホンの操作	8
4-1 操作部の名称と機能(HM-143)	8
4-2 呼び出し機能ON/OFFについて	10
4-3 運用の準備	10
4-4 基本操作【呼び出し機能ON】	11
4-5 相手局の選びかた【呼び出し機能ON】	13
4-6 基本操作【呼び出し機能OFF】	14
4-7 マイクハンガーによる音量調整機能	16
5.その他の機能について	17
6.別売品について	18
■別売品一覧表	18
7.保守について	19
■日常の保守と点検について	19
■故障かな？と思ったら	19
■故障のときは	20

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- 使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- 次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

【免責事項について】

お客様または第三者が、取扱説明書記載の使用方法とは異なる使用方法で本製品を使用したことにより生じた故障、ならびに本製品の違法な使用により生じた故障につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

本製品の使用により本製品以外に生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- ◎引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。

引火、火災、爆発の原因になります。



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。

交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。

運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

- ◎電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

- ◎製品の分解や改造は、絶対にしないでください。

また、ご自分で修理しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

- ◎マイクロホン(別売品)のケーブルを持って、マイクロホンを振り回したり、投げたりしないでください。

本人や他人に当たり、けがや故障、および破損の原因になります。

- ◎指定以外の電源や電圧を使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

- ◎DC電源ケーブルを接続するときは、⊕(プラス)と⊖(マイナス)の極性を間違えないように十分注意してください。

火災、感電、故障の原因になります。

- ◎DC電源ケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

1 安全上のご注意



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

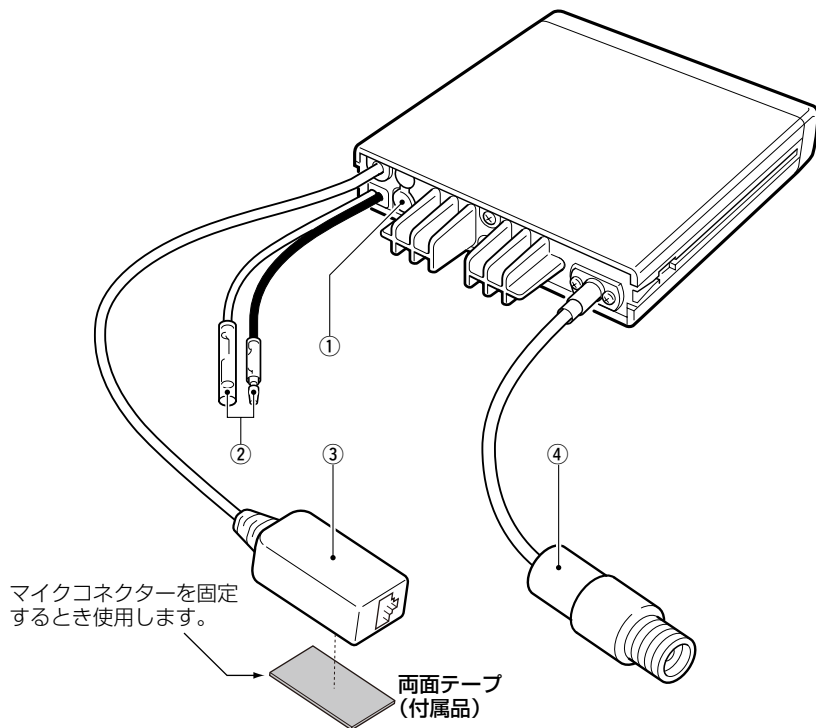
- ◎DC電源ケーブルや接続ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、加熱しないでください。
ショートして発火の原因になります。
- ◎接続がゆるかったり、DC電源ケーブルや接続ケーブルが傷ついたりしたときは、使用しないでください。
ショートして発火の原因になります。
- ◎長時間使用しないときは、安全のため本製品に接続する電源を取りはずしてください。
発熱、火災の原因になります。
- ◎雷が鳴り出したら、機器やアンテナ線、本製品のDC電源ケーブル、卓上電源装置（別売品）の電源ケーブルには、絶対に触れないでください。
感電の原因になります。
- ◎本製品のDC電源ケーブルや卓上電源装置（別売品）の電源ケーブルにホコリが付着した状態で使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎本製品のDC電源ケーブル、卓上電源装置（別売品）の電源ケーブルや接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎指定以外のヒューズを使用しないでください。
火災、故障の原因になります。
- ◎指定以外のDC電源ケーブルを使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電、けがの原因になります。
- ◎線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎水などでぬれやすい場所（加湿器のそばなど）に設置しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎万一煙が出ている、変なおいがあるなどの異常がある場合は、使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎ インバーター内蔵の電子機器やLED照明器具の周辺で使用しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- ◎ 容易に人が触れることができる場所にアンテナを設置しないでください。
送信中のアンテナは高電圧になることがあるため、感電、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ 指定以外の別売品を使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎ テレビやラジオの近くで送信しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- ◎ めれた手で本製品のDC電源ケーブルや卓上電源装置(別売品)の電源ケーブル、または本製品に触れないでください。
感電の原因になることがあります。
- ◎ 本製品のマイクコネクター部分に金属片やゴミを付着させないでください。
ショートして発火の原因になることがあります。
- ◎ 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に設置しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- ◎ $-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境では使用しないでください。
記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。
- ◎ 長時間使用すると、後面部の温度が高くなりますので、後面部に触れないでください。
また、周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。
やけどすることがあります。
- ◎ ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因となる場合があります。
- ◎ 本製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。
けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ 本製品の上に乗ったり、ものを置いたりしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

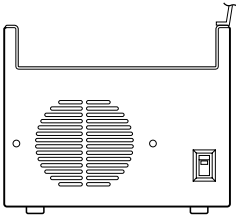
2-1 接続端子の名称と機能



①外部スピーカージャック	外部スピーカー(別売品:SP-7、SP-10、PS-230A)のスピーカークーブルを接続します。 (※P18) インピーダンスは、4Ωです。
②DC電源接続端子	DC13.8V、またはDC26.4Vの電源を接続する端子です。 (※P6) 付属品の電源ケーブルを使用して、車載バッテリーに接続します。
③マイクコネクター	別売品のシンプルマイクロホン(HM-143)を接続します。 (※P6、18) 必要に応じて、付属の両面テープで固定します。
④アンテナコネクター	アンテナを接続するM型コネクターです。 インピーダンス50Ωのアンテナを接続します。

2-2 設置のしかた

■ 基地局として設置する



屋内で、基地局として運用するときは、別売品の卓上電源装置(PS-230A)をご利用ください。

取り付け、および接続方法については、それぞれの別売品に付属する取扱説明書をお読みください。

■ 移動局として設置する

●設置するときは、「取り扱い上のご注意」(Piii)、「車両に取り付けるときのご注意」(Piv)を併せてお読みになり、安全運転に支障のない場所に設置してください。

●運用するときは、「自動車運転時のご注意」(Pii)をお読みになり、安全な方法で運用してください。

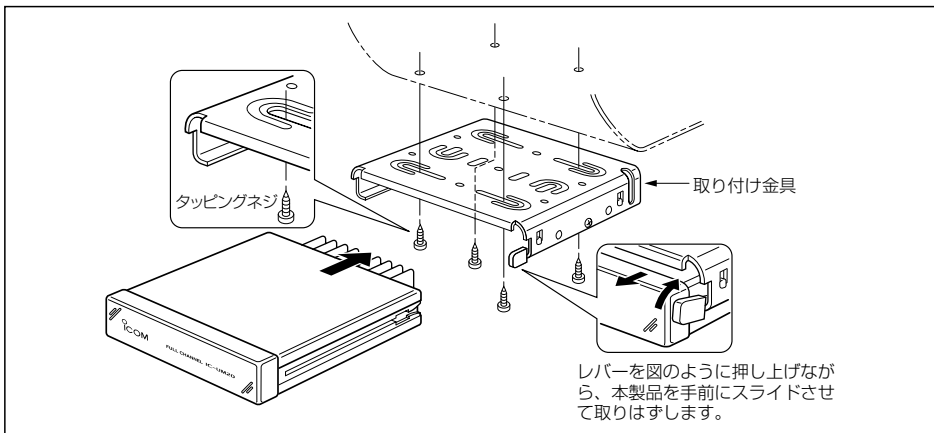
車内への取り付けかた

本製品は、防水構造ではありません。
雨水などでぬれやすい場所には設置しないでください。

1. 付属品の取り付け金具を利用して、下図のようにダッシュボードなどに、付属品のタッピングネジで取り付けます。

2. 取り付け金具のガイド部分に、本体両サイドにある溝を合わせ、本製品をスライドさせて固定します。スライドしていくと、なかほどから重くなりますが、軽く力を入れて押してください。

3. 本製品を取りはずすときは、右側のレバーを図のように押し上げながら、本製品を手前にスライドさせてください。



2 設置と接続

2-3 接続のしかた

後面パネルに付属品の電源ケーブル、別売品のマイクロホン、市販のアンテナをそれぞれ接続します。

⚠ 警告

付属品の電源ケーブルは、赤色が⊕(プラス)、黒色が⊖(マイナス)です。

DC26.4V±10%、またはDC13.8V±10%の電源装置に接続してください。

車載の場合は、付属品の電源ケーブルを使用して、24V、または12Vのバッテリーに直接接続してください。

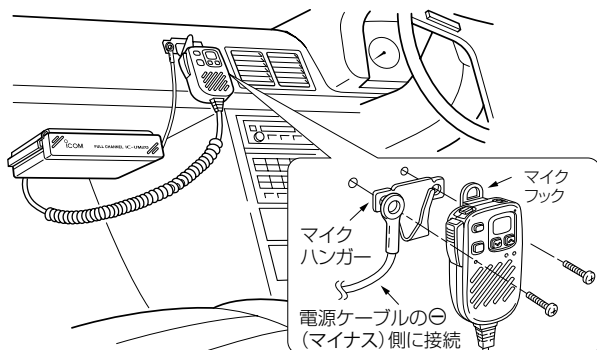
【ご注意】マイクロホンは、マイクコネクターに“カチツ、カチツ”と2回音がするまで差し込んでください。

■ 車内での取り付け例

【アース線について】

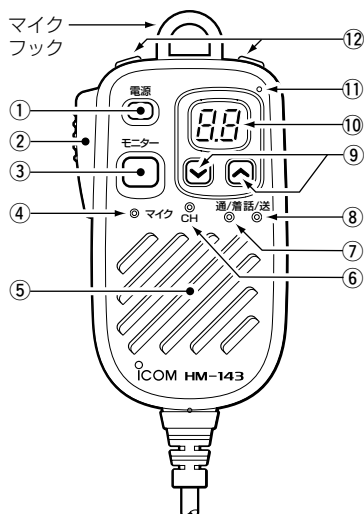
シンプルマイクロホンを使用する場合は、右図のように付属品のアース線とマイクハンガーをビスで共締めしてください。

また、もう一方の端を電源ケーブルの⊖(マイナス)側に接続してください。



4 マイクロホンの操作

4-1 操作部の名称と機能(HM-143)



①電源スイッチ	本製品の電源スイッチです。 スイッチを押すごとに、本製品の電源を“ON/OFF”します。 (P11、P14)
②PTT(送信)スイッチ	送信するときは、このスイッチを押しながら(話/送ランプを赤色に点灯、マイクロホン部に向かって話しかけます。
③モニタースイッチ	音量の確認や他局の交信を聞くときに押します。 スイッチを押すごとに、スケルチを“ON/OFF”します。 ●スイッチを長く押すごとに、通話チャンネル表示とメモリー番号表示を切り替えます。 (P11)
④マイクロホン部	この部分に、小型のマイクロホンを内蔵しています。 送信時は、この部分に向かって話しかけます。
⑤スピーカー部	この部分に、スピーカーを内蔵しています。
⑥CHランプ	ディスプレイ部が通話チャンネル表示のときに点灯します。
⑦通/着ランプ	通話/着信の状態を表示します。 ●「呼び出し機能ON」(P12)で呼び出しを受けると、緑色に点灯します。 ●通話状態で緑色に点灯し、終話判定時間(P17)を過ぎると消灯します。なお、『呼び出し機能OFF』(P10、P14)の場合は、機能しません。
⑧話/送ランプ	話中/送信の状態を表示します。 ●受信時など、スケルチが開くと、緑色で点灯します。 ●送信時など、PTTスイッチを押すと、赤色で点灯します。

⑨選択スイッチ  	通話したい相手局のメモリー番号、および通話チャンネルを選択します。 (P13) なお、通話チャンネル表示とメモリー番号表示の切り替えは、モニタースイッチを長く押します。 (P11、P13、P14) △を押すと、表示番号がアップします。 ▽を押すと、表示番号がダウンします。 押しつづけると、連続で可変します。
⑩ディスプレイ	選択スイッチで選んだ通話チャンネル、またはメモリー番号を表示します。
⑪オートディマー用採光窓	周囲の明るさに応じて、自動でディスプレイの明るさ(輝度)を調整します。
⑫音量スイッチ	受信時の音量を段階的に調整します。 (P11、P14) 田を押すと、音量がアップします。 田を押すと、音量がダウンします。 押しつづけると、連続で可変します。 なお、音量レベルが最大になると、禁止音が1回鳴って止まります。

■ ディスプレイ部

通話チャンネル表示	通話チャンネル表示の意味
 ~   ~ 	交信に使うチャンネルの表示です。 (P11、P13、P14) ※ 交信相手と同じチャンネルに設定してください。 ● IC-VM2005CTMは9チャンネル/IC-UM2005CTMは35チャンネルを表示します。 ※ 同時にCHランプが点灯します。
メモリー番号表示	メモリー番号表示の意味
	【全体呼び出し】 (P13) 全局を一齐に呼び出すときの表示です。 ※ 『呼び出し機能OFF』(P10)の場合も、同じ表示です。
 ~ 	【個別呼び出し】 (P13) 個別局、または基地局を呼び出すときの表示です。 ※ 個別番号は、00～99のメモリー番号に記憶しています。
 ~ 	【グループ呼び出し】 (P13) グループ局を呼び出すときの表示です。 100局を一齐に呼び出します。 「-0」は、000～099の個別番号を意味します。

4 マイクロホンの操作

4-2 呼び出し機能ON/OFFについて

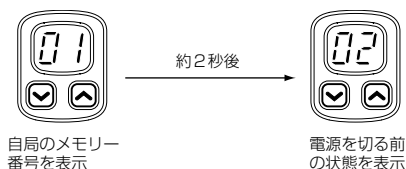
呼び出し機能とは、あらかじめ交信したい特定の局を選んで呼び出せる機能です。 (P13)

ご購入時、呼び出し機能が設定されないときは、使用できる機能に制限があります。

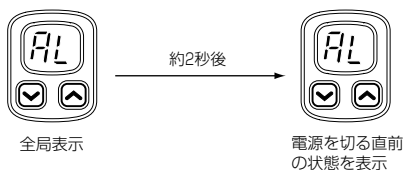
呼び出し機能が設定されているかどうかを、電源投入直後のディスプレイ表示で確認できます。

なお、本書では、この機能が設定されている状態を『呼び出し機能ON』、この機能が設定されていない状態を『呼び出し機能OFF』として説明します。

●『呼び出し機能ON』表示



●『呼び出し機能OFF』表示

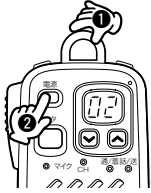


4-3 運用の準備

- アンテナ、電源ケーブル、マイクロホンなどが、正しく接続されていることを確認してください。
- マイクコネクターは、2段ロック構造になっています。
マイクロホンのプラグをマイクコネクターに“カチッ、カチッ”と2回音がするまで、差し込んでください。
- 連続トーンスケルチ、または連続デジタルコードスケルチ機能と、マイクハンガーによるスケルチ制御の両方が本製品に設定されているときは、マイクロホンをマイクハンガーにかけていることを確認してください。
※この状態にならないと、呼び出しを受けたときの動作（ポケットビープ、通/着ランプ点滅、相手局番号表示）をしません。

4-4 基本操作【呼び出し機能ON】

1.電源を入れる



1. マイクハンガーからマイクロホンをはずします。

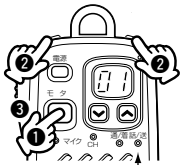
2. マイクロホンの【電源】スイッチを押します。

- 自局のメモリー番号をディスプレイに表示し、約2秒後にピープ音が“ピーツ”と鳴り、電源を切る前の状態を表示します。

再度、【電源】スイッチを押すと、電源が切れます。



2.音量を調整する



話/送ランプが緑色に点灯

1. 何も音が出ていないときは、【モニター】スイッチを押して、「ザー」というノイズが出る状態にします。

- 話/送ランプが緑色に点灯します。

2. 【音量】スイッチ(田/日)を押して、聞きやすい音量に調整します。

3. 再度、【モニター】スイッチを押すと、ノイズが出なくなり、話/送ランプが消灯します。

3.相手局を選ぶ



【選択】スイッチ(☒/☒)を押します。

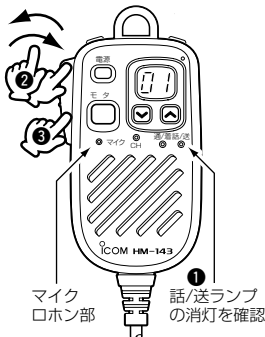
(相手局の選びかた※P13)

相手局のメモリー番号と通話チャンネルを選びます。

なお、【モニター】スイッチを長く押すごとに、メモリー番号と通話チャンネルを交互に切り替えます。



4.呼び出しをする



マイク
口ホン部

話/送ランプ
の消灯を確認

1. 話/送ランプの消灯を確認します。

2. 【PTT】スイッチを短く押します。

ピープ音が、“ピピツ”と鳴ります。

- 相手局が通話圏内であれば、ピープ音が、“ピツ”と鳴って、通/着ランプを緑色に点灯します。その後、約5秒何も信号がなければ消灯します。

- 相手局が通話圏外であれば、通/着ランプは点灯しません。

3. 【PTT】スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって、『こちらは××局です。』

〇〇さんどうぞ。』と呼びかけます。

- ピープ音が、“ピピツ”と鳴って、話/送ランプが赤色に点灯します。

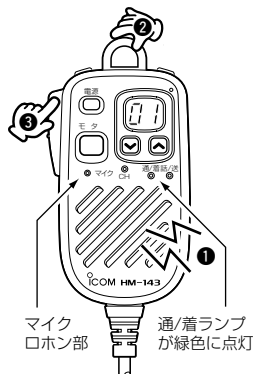


ご購入時、アンサーバック機能が設定されていないときは、2の操作は無効です。

4 マイクロホンの操作

4-4 基本操作【呼び出し機能ON】(つづき)

5.呼び出しを受ける



1. 呼び出しを受けると、通/着ランプが緑色に点灯します。

※ ポケットビープ設定時は、ポケットビープが“ピロピロピロ”と鳴ります。

※ アンサーバック機能が設定されていると、上記の状態に加えて、相手局のメモリー番号をディスプレイに点滅表示します。



アンサーバック
未設定時の表示



アンサーバック
設定時の表示

2. マイクハンガーからマイクロホンをはずします。

3. [PTT] スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって、

『こちらは〇〇局です。

××さんどうぞ。』と応答します。

- ビープ音が、“ピッ”と鳴って、話/送ランプが赤色に点灯します。

6. 交信する



1. 交信は、交互にします。

- 通話状態のあいだは、通/着ランプが緑色に点灯します。

- 送信中は、話/送ランプが赤色に点灯し、受信中は緑色に点灯します。

※ 双方同時に送信しても、交信できません。

※ 送信の終わりに「どうぞ」をつけ加えると、会話がスムーズに運びます。

2. 交信が終わりましたら、マイクロホンをマイクハンガーにかけます。

4-5 相手局の選びかた【呼び出し機能ON】

メモリー番号(2桁)には、交信相手の個別番号(3桁)が記憶されています。

メモリー番号の選びかたによって、次の3とおりの呼び出しができます。
(※P9)

●個別呼び出し(初期設定00～10)

メモリー番号(00～99)のうち特定の1局を呼び出す

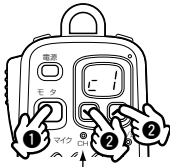
●グループ呼び出し

メモリー番号(-0～-9)に設定する100局を一斉に呼び出す

●全体呼び出し

全局(AL)を一斉に呼び出す

1. 通話チャンネルを選ぶには



CH表示ランプ
が緑色に点灯

【優先表示について】

【モニター】スイッチを長く押ししてから、【選択】スイッチを押すまでの間隔が長すぎる場合、自動で操作前の表示に戻りますので、迅速にスイッチ操作をしてください。

通話チャンネルとは、交信する周波数を記憶しているチャンネルのことです。

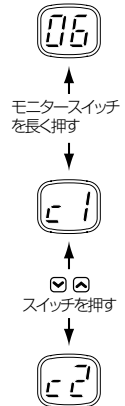
本製品のチャンネルは、IC-VM2005CTMは9チャンネル、IC-UM2005CTMは35チャンネルの選択ができます。

あらかじめ交信する全局は、同じチャンネルにしておきます。

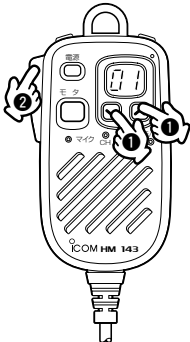
1.【モニター】スイッチを長く押し、通話チャンネル表示にします。

2.【選択】スイッチ(□/□)を押します。

※あらかじめ、設定された通話チャンネルだけが選択できます。



2. メモリー番号を選ぶには



1. 目的のメモリー番号を表示するまで【選択】スイッチ(□/□)を押します。

押しつづけると、連続で可変します。

※あらかじめ、設定されたメモリー番号だけを表示します。

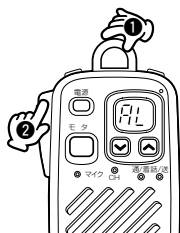
2. 呼び出しをする(※P11)と、選んだメモリー番号に対応した呼び出し動作(上記参照)で相手局を呼び出します。



4 マイクロホンの操作

4-6 基本操作【呼び出し機能OFF】

1.電源を入れる



1. マイクハンガーからマイクロホンをはずします。

2. マイクロホンの【電源】スイッチを押します。

- ディスプレイに“AL”を表示し、約2秒後にビープ音が“ピーツ”と鳴り、電源を切る前の状態を表示します。

再度、【電源】スイッチを押すと、電源が切れます。



ALを表示



電源を切る前の状態を表示

2.音量を調整する



話/送ランプ
が緑色に点灯

1. 何も音が出ていないときは、【モニター】スイッチを押して、「ザー」というノイズが出る状態にします。

- 話/送ランプが緑色に点灯します。

2. 【音量】スイッチ(田/日)を押して、聞きやすい音量に調整します。

3. 再度、【モニター】スイッチを押すと、ノイズが出なくなり、話/送ランプが消灯します。

3.相手局を選ぶ



CH表示ランプ
が緑色に点灯

【選択】スイッチ(囧/囧)を押して、相手局と同じ通話チャンネルにします。

※“AL”表示のときは、【モニター】スイッチを長く押すと通話チャンネル表示になります。

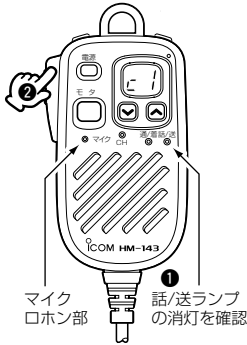
- CH表示ランプが緑色に点灯します。

※通話チャンネルが2チャンネル以上のときに動作します。

※通話チャンネルとは、交信する周波数を記憶しているチャンネルのことです。

- IC-VM2005CTMIは9チャンネル、
IC-UM2005CTMIは35チャンネルから選択ができます。

4.呼び出しをする



1.話/送ランプの消灯を確認します。

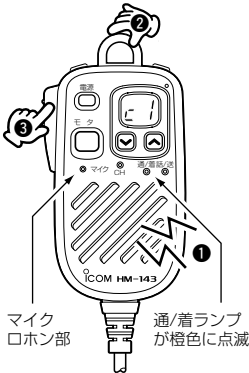
2.[PTT]スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって、
『こちらは××局です。』

○○さんどうぞ。』

と呼びかけます。

●ビーブ音が、“ピッ”と鳴って、話/送ランプが赤色に点灯します。

5.呼び出しを受ける



1.呼び出しを受けると、ポケットビーブが、“ピロピロピロ”と鳴って、通/着ランプが橙色に点滅します。

なお、ディスプレイ表示は、呼び出しを受ける前の状態を保持します。

2.マイクハンガーからマイクロホンをはずします。

3.[PTT]スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって、
『こちらは○○局です。』

××さんどうぞ。』と応答します。

●ビーブ音が、“ピッ”と鳴って、話/送ランプが赤色に点灯します。

6.交信する



1.交信は、交互にします。

●送信中は、話/送ランプが赤色に点灯し、受信中は、緑色に点灯します。

※双方同時に送信しても、交信できません。

※送信の終わりに「どうぞ」をつけ加えると、会話がスムーズに運びます。

2.交信が終わりましたら、マイクロホンをマイクハンガーにかけます。

4 マイクロホンの操作

4-7 マイクハンガーによる音量調整機能

【ご参考】

あらかじめ、この機能が本製品に設定されていないと、機能しません。

この機能を使うと、シンプルマイクロホン(HM-143)をマイクハンガーにかけたときの音量と、かけていないときの音量を、別々に設定できます。

騒音の激しい場所でお使いのときなど、呼び出し音は大きく、手元で通話するとき、音量が小さくなるように設定できます。

【マイクハンガーにかけたときの音量設定】

- ①マイクロホンをマイクハンガーにかけた状態にします。
- ②何も音が出ていないときは、**【モニター】**スイッチを押して、「ザー」というノイズが出る状態にします。
 - 話/送ランプが緑色に点灯します。
- ③**【音量】**スイッチ(田/田)を押して、聞きやすい音量に調整します。
- ④再度、**【モニター】**スイッチを押すと、ノイズが切れます。

【マイクハンガーにかけていないときの音量設定】

- ①マイクロホンをマイクハンガーからはずした状態にします。
- ②以下、**【マイクハンガーにかけたときの音量設定】**の操作②～④の順番で音量を調整します。

1. ポケットビーブ機能

全体、またはグループ呼び出しのときは、ポケットビーブ機能は動作しませんので、相手局の応答に関係なく、マイクロホン部に向かって呼びかけてください。
工場出荷時は、OFFに設定しています。

ポケットビーブ設定時、個別局の呼び出しをすると、相手局では呼び出し音(ポケットビーブ)が約30秒鳴りつづけます。

呼び出しをしたとき、相手が無線機からはなれていたなどの理由で、応答がないときは、呼び出し局が再度【PTT】スイッチを押すと、何回でも呼び出しできます。

※アンサーバック機能を設定している場合、再度ポケットビーブで呼び出しをしたいときは、両者の無線機が待ち受け状態(通/着ランプ消灯)に戻ってから、【PTT】スイッチを押します。

2. アンサーバック機能

工場出荷時は、OFFに設定しています。

『呼び出し機能ON』の状態を設定できる機能で、特定の局を呼び出すとき、相手局が通話圏内であるかを、通/着ランプの点灯で確認できます。

なお、この機能を使用するには、双方の無線機に設定が必要です。

3. Pベル機能

工場出荷時は、OFFに設定しています。

呼び出しがあったことを静かに知らせる機能で、この機能を“ON”にしておくと、呼び出しを受けたとき、相手局の音声ミュートして、着信ランプの点滅(橙色)とブザー(ピー音、3回)で知らせます。このとき、ポケットビーブが設定されていると、ブザーのあとに、ポケットビーブが鳴ります。

4. 終話判定時間

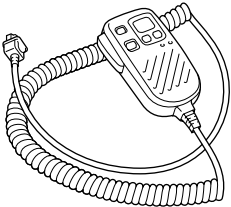
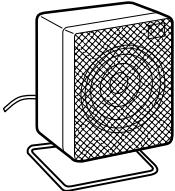
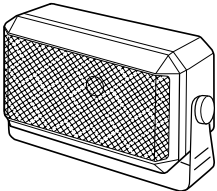
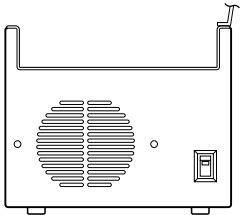
本製品が、『呼び出し機能ON』に設定されているとき、機能します。

マイクロホンの通/着ランプが、緑色に点灯している(通話状態)あいだは、表示中のメモリー番号、または個別番号で交信できます。

終話判定時間(工場出荷時:5秒)以上、通話が途切れたときは、通話状態を自動的に解除(終話)します。

■別売品一覧表

次のような本製品専用の別売品をご用意しています。

● HM-143 シンプルマイクロホン 	● SP-7(生産終了品) 外部スピーカー 	● SP-10 外部スピーカー 
● PS-230A 卓上電源装置 	● OPC-841(生産終了品) :マイクロホン延長ケーブル(5m)	

【別売品についてのご注意】

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■日常の保守と点検について

- ◎マイクロホン、アンテナ、電源ケーブルなどがしっかりと接続されているか、ゆるみがないかを点検してください。
- ◎音量が最小に調整されていないか、**【モニター】**スイッチを押して確認してください。
- ◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通信状態に変化がないか調べてください。
- ◎車載でご使用のときは、車載用アンテナが走行中にはずれると大変危険ですから、しっかりと固定されていることを点検してください。
- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

■故障かな？と思ったら

- ◎製品はすべて厳重な品質管理と厳しい検査により出荷されていますが、万一故障が発生したときは、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターまで、故障状況をできるだけ具体的にお伝えください。
- ◎故障と思われるときでも、もう一度、次のことを確認してください。
 - ①**【電源】**スイッチを押しても電源が入らないときは、ヒューズを調べ、断線しているときは、付属の予備ヒューズと交換してください。
 - ②マイクロホンの**【PTT】**スイッチを押し、送信ランプが赤色に点灯しているのに通話できないときは、他局の信号を受信していないか、アンテナやアンテナケーブルに異常がないか調べてください。
 - ③スピーカーから音が聞こえないときは、音量が最小に調整されていないか、**【モニター】**スイッチを押して確認してください。

7 保守について

■故障のときは

「故障かな？と思ったら」(☞P19)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先:アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール:support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ:<http://www.icom.co.jp/>

●弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

高品質がテーマです。